

京都祇園祭の山鉾行事歴史資料調査 V

公益財団法人祇園祭山鉾連合会



## 刊行にあたって

公益財団法人祇園祭山鉾連合会 理事長 木村 幾次郎

私ども祇園祭山鉾連合会は令和五（二〇二三）年に創設一〇〇年を迎えました。

これに合わせまして、多くの先生方のご協力を得て、令和二（二〇二〇）年に祇園祭山鉾行事歴史資料調査委員会を発足し、五年間を目途として、特に多難であった近現代の山鉾行事の資料の整理と調査を実施いたしました。

その矢先、コロナ禍の影響で十分な活動ができない時期もございましたが、諸先生方のご熱意により、山鉾連合会ははじめ多くの保存会の保有する資料の整理調査ができました。

私たちはこの資料を大切な教材として、先人たちの乗り越えてきた苦労を教訓としつつ、この素晴らしい行事を確実に次世代に引き継いでまいります。

五年間にわたりご協力いただきました先生方並びにお手伝いいただきました学生の皆様、さらには多方面にわたりご指導ご協力をいただきました京都市の皆様には厚く御礼申し上げます。

## 凡例

- ・本書は、公益財団法人祇園祭山鉾連合会が令和六年四月から令和七年三月にかけて実施した、歴史資料調査の報告書である。
- ・本事業の調査体制については、巻末を参照されたい。
- ・本年度の調査に当たっては、八坂神社及び京都新聞社、公益財団法人函谷鉾保存会、公益財団法人芦刈山保存会、公益財団法人霞天神山保存会より格別のご高配を賜った。
- ・本書で報告する資料は、祇園祭山鉾連合会所蔵「祇園祭山鉾連合会文書」と『京都滋賀新報』、『日出新聞』、『京都日出新聞』所載の記事及び芦刈山町文書、一力亭（杉浦家）資料の目録である。
- ・資料の翻刻については、別に凡例を掲げている。
- ・本書の執筆・編集は、村上忠喜（京都産業大学教授）と村山弘太郎（京都外国語大学准教授）、今中崇文（京都市文化財保護課文化財保護技師）、谷川穰（京都市大学院文学研究科教授）が行い、祇園祭山鉾連合会事務局と安井雅恵（京都市文化財保護課美術工芸・民俗文化財係長）・福持昌之（京都市文化財保護課文化財保護技師・主任）、今中崇文（京都市文化財保護課文化財保護技師）が補佐した。
- ・本事業は、文化庁の令和六年度地域文化財総合活用推進事業（ユネスコ無形文化遺産）の助成を受けて実施する「祇園祭の文化遺産総合活性化事業」の一部である。

# 目次

刊行にあたって 公益財団法人祇園祭山鉾連合会 理事長	木村幾次郎	1
まえがき	村上 忠喜	4
第一章 京都祇園祭の山鉾行事の近代資料		
『自昭和七年七月一日至同昭和十二年七月（六月十四日）祇園山鉾連合会記録 其二』解説	村山弘太郎	6
『自昭和七年七月一日至同昭和十二年七月（六月十四日）祇園山鉾連合会記録 其二』翻刻		11
第二章 新聞記事に見る山鉾行事の近代		
明治時代のくじ取り式・くじ改め	今中 崇文	58
明治時代のくじ取り式・くじ改め関連記事		62
第三章 目録		
「芦刈山町文書」目録	今中 崇文	92
「二力亭（杉浦家）資料」目録	谷川 穰	94
調査体制		136

## まえがき

村上 忠喜

前に増して感じるようになってきている。  
最後に、大変な忙しさなので調査準備の便を図っていただいた祇園祭  
山鉾連合会事務局や、調査に協力いただいた保存会など関係者の方々に篤  
くお礼を申し上げます。

本年度で、この事業も一段落を迎えた。

令和二（二〇二〇）年度から文化庁の補助金を受け、公益財団法人祇園祭山鉾連合会が主体となって進められた本事業も五年間の期限付きであったため、今春いったん終了することとなったのである。新型コロナウイルス感染症の蔓延とともにはじまった本事業は、上半期にはほとんど調査もできない状況が続き、ようやく一昨年からの新たな資料発掘が本格化しつつあるところ、調査者の感覚としては、いよいよ本番というような感じであったが致し方ない。それでもこの間、各保存会様のご協力のもと、新たな資料の発掘が進んだことは喜びであった。

第五集となる本書には、山鉾連合会所蔵文書から『自昭和七年七月一日至同昭和十二年七月（六月十四日）祇園山鉾連合会記録 其二』の翻刻と解題、そして明治時代のくじ取り式・くじ改め関連記事新聞記事を掲載した。また文書目録としては、「芦刈山町文書」目録と「一力亭（杉浦家）資料」目録を掲載した。

本年度の調査で見出せた資料群は他にもあるが、その整理や翻刻は追いついていない。各町内に眠る山鉾関係の資料はいつたいどのくらいあるのだろうか。汲めども尽きない深い井戸と格闘するかのごとき気にもなるが、一方で山鉾行事の近代の輪郭が徐々にはっきりしていくことに喜びを感じている。まだまだ途半ばではあるが、何とか継続していく必要性を以